

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥409番地1		
自己評価作成日	平成23年 8月 1日	評価結果市町村受理日	平成23年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171000488&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成23年 9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域社会との交流を深めながら、その地域の一人としての意識を持ってもらい、日々の生活の中で生き甲斐をもって楽しく心安らかに生活していただけるような心細やかな支援ができるよう取り組んでいる。
医療法人社団 福寿会としてグループホームの他に、小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者介護、短期入所生活介護、居宅介護支援のサービスを行っており、それらの施設と連携をとりながら、利用者や家族の希望にそった、個々の利用者に適した総合的なサービスの提供を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関を母体として、同一エリア内に複数の介護事業を展開する企業体の一員として、当ホームは既に8年目を迎えている。「働きやすく楽しい職場づくり」を目指す管理者の思いが職員にも浸透し、ベテラン、中堅、若手の職員がバランス良く配されていることもあって、チームワーク抜群の支援を展開している。
ユニットの垣根を越えて行き来したり、独りで中庭を散歩したり、買い物時には自身で支払いの精算を済ませる等、利用者の自由で生きいきした活動が見られる。毎晩、晩酌を楽しめる利用者もいる。家族からの信頼も厚く、感謝の言葉や讃辞に混じって、建設的な意見や要望も寄せられた。これらの一つひとつに丁寧に対処していくことで、さらにケアの質が高まっていくことが確信できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で重要な役割を果たし、地域社会に貢献するという意識を持ち、利用者のそれまでの人間関係や地域とのつながりを大切に、穏やかに暮らしてもらえるよう、理念を共有し実践している。	「職員が明るく、笑顔で支援にあたる」ことを念頭に置き、管理者はホーム運営にあたっては、管理者のこの信念は他の職員にも受け入れられており、生き活きとしたホームの礎となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアが年間を通して来訪している。また、中高生の職場体験も行っている。苑の前庭では、春祭りや盆踊りなどが行われ、交流の場となっている。	ホームに隣接した広い駐車場は、夏の時期、「白鳥おどり」の会場となる。地域の住民に憩いの場を提供し、利用者・職員もまたその輪の中に入っていく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けたときには、認知症についての知識や介護の方法等をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者家族や市職員、自治会長、民生委員の方々と、災害時の対応や運営方針等について話し合っている。	運営推進会議は、同一法人の他のグループホーム、小規模多機能施設との共催であり、3～4ヶ月に1回の頻度で開催されている。参加メンバーが多く、活発な意見交換が行われている。	これまで、地域密着型サービスに知見を有する者の参加がなかった。適切なメンバーを選出して、会議のさらなる充実を図ってほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員を毎月受入れたり、包括支援センターの事業所訪問を受けるなど、連携している。また、高齢福祉課の担当者とは頻りに連絡を取っている。	行政担当者との折衝や相談事は、管理者の上司である苑長の役目となっている。月に2～3回の連絡や報告を電話で入れて、ホームの状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束のないケアを実践している。日中は玄関には施錠せず、開放している。	利用者の状態に合わせて、玄関の扉を施錠することもある。不穏であった利用者が、ある程度安定してきたので、現在では施錠を解いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修会等に参加し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解が浅く、研修や勉強会などで学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に、または契約締結時及び解約時には、不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員は利用者や家族から不満や要望を聞くよう努めている。また、毎月外部から介護相談員を受け入れている。	1年に1回、敬老会に合わせて家族会が開催される。約8割の家族が参加し、ホーム側の職員を入れずに話し合いがもたれる。家族との協力的な関係が構築されており、家族アンケートの結果も良好であった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ケア会議や責任者会議を開き、職員の意見や提案を聞き、それを運営に反映させるよう努めている。	若手、中堅、ベテランと程よく配された職員構成であり、管理者の目指す「楽しく働ける職場環境」が実現できている。管理者は、職員の個人的な相談にも乗っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っており、昇給や資格手当など、各自が向上心を持って働けるよう考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、その段階に応じ、計画に基づいて定期的に研修を受けている。また、新人研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に加入しており、他施設との交流をはかり、情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、本人や家族と話し合い、現在の状況やこれまでの生活歴等の情報を出来る限り収集し、サービス計画の基本を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも出来る限り面談し、話を聞く機会を設けて、不安を取り除き、安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、まずどのようなサービスが適切なのかを十分に話し合い、系列施設のサービス利用も含め、その状況にあった対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一方的に介護する人になるのではなく、利用者からみて信頼(安心)出来る人生のパートナーとして信頼関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	分からないことは家族に相談したり、面会や外出もお願いしながら、共に協力しながら利用者を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交通の便の良い所にあり、友人や知人が来訪されている。美容院や喫茶店等、馴染みの店に出かけるなど、これまでの関係が途切れないよう支援している。	中庭には池もあり、絶好の散策コースとなっている。その一角に菜園があるが、馴染みとなった近所の住民が手入れ役を買ってくれている。盆には、家族と墓参りをされた利用者が数人いる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の輪に入れない人がいるときは、職員が中に入り孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族等から依頼があれば、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族からの聞き取りや情報で、利用者の得意なことや好きなことを把握し、その内容を記録に残し、職員間で共有している。利用者の思いや意向は、日々の支援に活かしている。	利用者の思いや意向を日々のケアの中で実現させようとの意識は強いが、把握した思いを組織的な取り組みに展開するルールが確立していない。	利用者の新たな情報(思いや意向、生活歴)を、職員の記憶に頼るのではなく、定められたルールの下で記録にとどめることが望ましい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等からの情報だけでなく、日々の会話のなかから利用者のこれまでの生活環境等を聞きだし、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の生活の状況を毎日の職員のミーティング等で話し合い、細かに把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人に相談しながら、毎日のミーティングや月一回のケア会議等で検討し、その意見やアイデアを介護計画に反映させ、作成している。	介護計画とは別に、利用者個々に詳細な「個別ケアマニュアル」が作成されており、職員との支援の礎となっている。介護計画そのものは、プランの繰り返しが多い。	その人らしさを支援する「個別ケア」は、利用者の思いや意向を反映させた介護計画の作成から始まる。思いをかなえるプランの実現を待ちたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個別ケースに記録し、利用者の様子やわずかな変化なども見逃さないよう、毎日のミーティングで情報を共有し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、既存のサービスに捉われない柔軟な対応や、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、警察、消防、教育機関等と協力して支援している。また、ボランティアには頻りに協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望によりほとんどの利用者が当法人の医師をかかりつけ医としており、週に数回往診があり、適切な医療を提供している。その他専門医への通院・治療も医師や家族と相談しながら支援している。	経営母体が医療機関であり、利用者全員がその医療機関をかかりつけ医としている。突発的な事案に対しても迅速に対応でき、家族だけでなく職員の安心感にもつながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者の状態を随時看護職員や系列の医院の看護師に報告し、適切な受診が受けられるよう、日常の健康管理等の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護職員が付き添い、状況を伝えるとともに、サマリーを送り情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人や家族の意向を聞き、早い段階から重度化や終末期に向けた方針を話し合い、当ホームで出来ることをしっかりと見極め、主治医と相談しながら、出来る限りの支援が行えるよう取り組んでいる。	条件が合えば、終末期のケアを実施する方針を持っているが、ほとんどの利用者が特養施設に併願している。家族からは、最期までホームで暮らし続けることを望む声が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員が急変時や事故発生時の対応について指導しているが、全ての職員を対象とした訓練は行っていないので、定期的実践的な訓練を行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもとに、年に2回避難訓練を実施している。また、夜間の災害時にも隣接する系列施設や近隣住民からの応援体制を整えている。	夜間には、夜勤者が1名体制となることから、夜間を想定した避難訓練を実施して万全を期している。ホーム周辺には同一法人の経営する事業者が数多く建っており、緊急時には応援体制が組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重することを全職員が意識し、その人に合った言葉掛けや対応をし、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しながらケアしている。	金銭を本人で管理できるほどの利用者が3名程おり、買い物時には各自で支払いをさせてプライドの維持を図っている。降雪時の「雪上げ」は、男性利用者が役割を買って出ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらから一方的に誘導するのではなく、本人が自分で決められるよう、一人ひとりの性格に合わせた対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切に、希望に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院等本人の希望の店があれば利用してもらおうよう支援し、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、管理栄養士がたてているが、出来るだけ利用者の好みを取り入れるよう工夫している。野菜の下準備やテーブル拭き、後片付けも出来る限り一緒に行うようにしている。	調理専門の職員が配置されているが、利用者もそれぞれの力量に合わせて調理を手伝っている。毎晩、晩酌を楽しまれる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量をチェックして、管理栄養士と連携を取りながら、一人ひとりの状態に合わせてバランス良く摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔を保つため、毎食後必ず入れ歯の洗浄、うがいや歯磨きなどの口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の表情や動作等から、排泄の有無を察知し、さり気なく声掛けをし、失敗が少なくなるよう支援している。排泄パターンは記録等によって職員が把握し、出来る限り自然排泄できるよう支援している。	排泄に関しては完全自立している利用者も多く、昼夜ともにおむつを着用している者はいない。ただ、利用者の体調に合わせ、軟便になった場合など臨時におむつを着用する時もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や栄養士と相談しながら、献立を工夫したり、適度の運動を勧めるなど毎日チェックして、一人ひとりに合わせた便秘対策を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の入浴の予定はあるが、本人の希望により変更したり、時間をずらしたりして柔軟に対応している。入浴中も会話をしながらくつろいでもらえるよう工夫している。	基本は、週に2回程度の入浴機会である。入浴を拒否される場合もあるが、その時は無理強いせず、時間を置いて呼びかけたり、翌日に回したりして気分の転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活・睡眠のパターンを把握し、休息、睡眠、起床の支援を行っている。日中のメリハリのある生活や適度な運動によって夜間の安眠を確保するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬の内容を把握し、ダブルチェックを行い、服薬に誤りがないよう気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある生活を送れるよう、その人の趣味や特技等を活かした活動ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には戸外に出て、外気浴や散歩に出かけている。また、普段行けないような場所にも、本人の希望を聞きながら定期的にでかけるよう、季節に応じた外出支援をしている。	利用者自身で金銭管理ができる方もおり、散歩がてらに近所の商店をのぞいたり、馴染みのお店に立ち寄ったりと、楽しい外出である。ホームには池のある庭園が配されており、散歩コースとしても有効に利用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方には個人で管理してもらっているが、事業所で管理している方も、買物のときの支払い等は本人にまかせている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通り、自由に電話したり手紙を出したり出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節の花や絵を飾ったりして、生活感や季節感を出し、心地よく過ごせるよう工夫している。	建物中央の玄関、事務所を挟んで左右にユニットが分かれており、廊下づたいに利用者が自由に行き来している。自由度、開放感ともに満点の共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下にはソファが置いてあり、それぞれの利用者が自分の居場所を確保し、気の合った人同士で楽しく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品や装飾品を使ってもらい、居心地良く過ごせるよう、家族や本人と相談しながら支援している。	共用部分と同様、居室の床もフローリングであり、掃除が行き届いて清潔感がある。書架が作り付けとなっており、収納スペースが十分にとってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂、廊下等すべて手摺りが設置されている。居室やトイレが分かりやすいよう表示するなど、混乱や失敗がないよう工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	苑内での生活では利用者一人ひとりに合った個別ケアを心がけているが、特別な思いや希望を聞いてそれを実現するケアが少し不足している。	利用看や家族が今以上に満足していただけるケアの充実	日頃の生活の中から聞き出した利用者の思いを意向シートに記録し、家族の協力も得ながら、その思いが実現出来る介護計画の作成。	6ヶ月
2	49	利用者の希望に添った外出支援を行っているが、一部の家族から外出が少ないのではないかと意見が出ている。	利用者の方の希望に添った外出支援を行い、家族にもその内容を便りなどを通じてお知らせする。	利用者により、頻繁に外出する方とあまりしない方に分かれてしまう。一人ひとりの意向により利用者や家族が満足して過ごせるよう介護計画を見直し、外出等の状況をこまめに家族に連絡することで理解を得るよう努力する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。